

□講義科目（専門科目）

科目名	スポーツコーチング特論	2単位
担当者	三井利仁	
テーマ	指導者は選手の競技力を向上させ、成果を上げさせることにある。選手を育成・強化するコーチング能力、コミュニケーション能力を身につける。	
科目のねらい	<p><キーワード> ① 競技力向上 ② 人間力 ③ 方法論</p> <p><内容の要約> コーチングはヒトの能力を向上させる手段であり、この講義では、あらゆるヒトの運動能力をいかに計画的、効率的に向上させていくかを取り上げていく。本特論ではトップアスリートだけではなく広く、コーチングを活かせる知識について理解する。特に構成要素の中でも情報、計画立案について応用的に考える。</p> <p><学習目標> 1. ヒトがスポーツ機範に基づき、主体的、継続的にスポーツを楽しむ事を理解することができる。 2. 単に競技力向上だけではなく、指導者として正しいコミュニケーションのとり方、情報利用の方法について理解することができる。 3. 年齢、体力、技術、環境に応じて、快適にスポーツを享受できるように、スポーツとの関わりを主体的にコーディネートする資質や能力を広く学び、競技者が人間力向上の上に競技力が向上することの重要性を理解することができる。</p>	
授業の進め方	第1回 オリエンテーション 第2回 コーチングとテーチングについて 第3回 スポーツコーチングの在り方 第4回 競技力の構成要素について 第5回 リスクマネジメント 第6回 障害児へのスポーツ指導（講師・オンライン） 第7回 海外の事例報告 第8回 スポーツと情報活用について（ICT） 第9回 PDCA サイクルについて 第10回 パラアスリートによる講話（講師・オンライン） 第11回 スポーツと情報活用について 第12回 スポーツと情報活用について 第13回 アナリストデータの活用 第14回 スポーツコーチングの方法 エビデンス評価 第15回 口頭試問	
事前学習の内容 学習上の注意	履修上の注意 予習：該当する内容について、参考書などを熟読し、疑問点などを明確にして授業に臨むこと。 復習：授業内容を深めるとともに、不明確な内容については再度学習すること。 その他：授業には積極的な姿勢で参加すること。	
本科目の 関連科目	スポーツ共生社会特論、スポーツ心理学特論、実践トレーニング特論	
テキスト	随時、独自に制作された配布資料を用い、その中で参考書などを紹介する。	
参考文献	1. Coaching: Coaching Strategies: The Top 100 Best Ways To Be A Great Coach (Sports Coaching Strategies for Conditioning (Ace McCloud : 編) 2. 図解 コーチングマネジメント 人と組織のハイパフォーマンスをつくる (伊藤守 : 編) 3. 伸びる人のデータの読み方、強い組織のデータの使い方—全日本女子バレーボールチーム・アナリストが教える情報戦略 (渡辺 啓太 : 編)	
成績評価方法 と基準	1. 平常点は、授業中のプレゼンテーション、さらに予習・復習で行われるノートの整理、グループワーク課題の記載を 30 点 2. さらに、授業中の各種グループワークへの取り組みの態度を 20 点 3. 定期試験による出題への知識・理解、さらに研究的思考力を 50 点 4. 3つの合計 100 点中 60 点で合格点とする。	

